

2016年3月期 第2四半期決算報告

2015/11/13

第一生命保険株式会社

一生涯のパートナー

第一生命

- 第一生命保険の稲垣です。
本日は、第一生命グループの2016年3月期第2四半期の決算報告にご参加いただきまして、ありがとうございます。
- 早速ですが、いつものように、私から資料に沿って決算内容をご説明し、残りの時間を質疑応答とさせていただきます。
- 1ページをご覧ください。

- 当第2四半期累計の連結業績は、増収・増益。プロテクティブ社の業績の取込みに加え、第一フロンティア生命の収支改善が主な要因。国内外における保険販売も堅調に推移。
- 当第2四半期累計の窓販業績を踏まえ、連結経常収益の通期予想を上方修正。第一生命単体における順ざやの拡大を踏まえ、基礎利益の通期予想を上方修正。
- 2015年9月末のグループ・エンベデッド・バリューは、5.6兆円。金融環境の悪化を背景に前期末比で減少したが、第一フロンティア、TAL、プロテクティブ社のEVは増加(現地通貨ベース)。

- 今回の決算のポイントを以下の3点にまとめました。
- 第一に、当期より米プロテクティブ社の業績が連結対象になったことや、第一フロンティア生命の責任準備金が一部戻入れに転じたことで、連結業績は増収・増益となりました。国内外の保険販売も堅調に推移しました。
- 第二に、第一フロンティア生命における、当第2四半期累計の好調な営業業績を踏まえ、連結経常収益の通期予想を上方修正しました。また、第一生命単体における想定以上の利息配当金等収入が順ざやを拡大したことから、基礎利益の通期予想を上方修正しました。
- 第三は、エンベディッド・バリューについてです。世界的な金融環境の悪化を背景に、グループEVは前期末比で減少し5.6兆円となりました。過去最高値の連続更新はなりませんでしたが、国内外の成長事業のEVは増加しました。
- 2ページをご覧ください。

- 子会社業績の貢献により、連結経常収益・連結経常利益・連結純利益⁽¹⁾ともに前年同期比で増加

(億円)

	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計 (a)	前年同期比	
連結経常収益	34,627	36,833	+2,205	+6%
第一生命単体	22,568	21,049	△1,518	△7%
連結経常利益	2,343	2,412	+68	+3%
第一生命単体	2,240	1,840	△399	△18%
連結純利益 ⁽¹⁾	1,233	1,351	+118	+10%
第一生命単体	1,167	909	△257	△22%

<参考>

	2015/5/15 発表予想	2015/11/13 発表予想 (b)	進捗率(a/b)
	67,730	70,960	52%
	41,240	42,010	50%
	3,690	3,690	65%
	3,010	3,010	61%
	1,610	1,610	84%
	1,190	1,190	76%

(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を記載しています。

- 業績ハイライトをお示ししています。
- 連結経常収益は前年同期比6%増の3兆6,833億円、連結経常利益は同3%増の2,412億円、親会社株主に帰属する中間純利益は同10%増の1,351億円と、増収・増益となりました。
- 先ほどご説明した通り、連結経常収益の通期予想を上方修正しました。
- 3ページをご覧ください。

■ 堅調な保険販売と、プロテクティブの連結効果が業績に貢献

連結損益計算書(要約)⁽¹⁾

(億円)

	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	増減
経常収益	34,627	36,833	+2,205
保険料等収入	25,869	27,900	+2,030
資産運用収益	7,120	7,100	△19
うち利息・配当金等収入	4,105	5,305	+1,200
うち有価証券売却益	1,111	1,297	+185
うち特別勘定資産運用益	1,700	-	△1,700
その他経常収益	1,637	1,832	+194
経常費用	32,284	34,421	+2,136
うち保険金等支払金	15,689	19,664	+3,975
うち責任準備金等繰入額	11,097	5,571	△5,525
うち資産運用費用	579	3,982	+3,403
うち有価証券売却損	55	337	+282
うち有価証券評価損	5	57	+51
うち金融派生商品費用	45	228	+182
うち特別勘定資産運用損	-	1,208	+1,208
うち事業費	2,812	3,258	+446
経常利益	2,343	2,412	+68
特別利益	7	1	△6
特別損失	128	116	△11
契約者配当準備金繰入額	464	457	△6
税金等調整前中間純利益	1,758	1,839	+81
法人税等合計	524	487	△36
非支配株主に帰属する中間純利益	0	0	△0
親会社株主に帰属する中間純利益	1,233	1,351	+118

連結貸借対照表(要約)

(億円)

	15/3末	15/9末	増減
資産の部合計	498,372	498,888	+515
うち現預金・コール	12,538	11,521	△1,016
うち買入金銭債権	2,658	2,509	△148
うち有価証券	411,054	412,131	+1,077
うち貸付金	38,981	38,021	△960
うち有形固定資産	12,170	12,131	△39
うち繰延税金資産	13	13	△0
負債の部合計	462,472	468,673	+6,200
うち保険契約準備金	425,470	431,153	+5,683
うち責任準備金	416,347	422,206	+5,859
うち退職給付に係る負債	3,313	3,348	+35
うち価格変動準備金	1,362	1,454	+92
うち繰延税金負債	6,433	3,606	△2,827
純資産の部合計	35,899	30,214	△5,684
うち株主資本合計	10,296	11,012	+716
うちその他の包括利益累計額合計	25,594	19,192	△6,402
うちその他有価証券評価差額金	25,282	18,902	△6,380
うち土地再評価差額金	△334	△342	△8

(1) 特別勘定資産運用損益は、責任準備金の戻入れ/繰入れで相殺されるため、経常利益に影響するものではありません。

- 連結主要収支の詳細をご説明します。
- 経常収益は、主にプロテクティブ社を連結したことで、保険料等収入が前年同期比約2,000億円、利息・配当金等収入が同約1,200億円増加しました。特別勘定資産に関する運用損益は、前年同期の運用益から、運用損へと悪化しておりますが、注記に記載のとおり、経常利益への影響はありません。
- 経常費用項目では、保険金等支払金が同約4,000億円増加しましたが、増加分の約半分は、第一生命における団体年金の解約と、第一フロンティア生命における貯蓄性保険の解約などによるものです。この影響についても、責任準備金の戻入れを通じて相殺されています。また、残りは、プロテクティブ社の連結によるものです。責任準備金等繰入額の減少同約5,500億円は、前述の影響に加え、第一フロンティア生命において、責任準備金の戻入れが生じたことが主な要因です。資産運用費用の増加には、表中の記載のほか、為替差損の増加が同約1,600億円含まれておりますが、ほとんどが第一フロンティア生命の外貨建商品に関するものであり、こちらも責任準備金の戻入れを通じて、損益への影響が相殺されています。事業費の増加は、主にプロテクティブ社の連結によるものです。
- 以上のことを含め、経常利益・純利益は改善しましたが、今回は、責任準備金関連の入り繰りが多く発生しておりますので、4ページで各社ごとの収支を詳しくご説明します。

	【第一生命】			【第一フロンティア生命】			【米プロテクトティブ】 ⁽¹⁾⁽²⁾			【豪TAL】 ⁽²⁾			【連結】		
	(億円)			(億円)			(百万米ドル)			(百万豪ドル)			(億円)		
	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	前年 同期比	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	前年 同期比	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	前年 同期比	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	前年 同期比	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	前年 同期比
経常収益	22,568	21,049	△7%	10,779	10,406	△3%	--	3,472	--	1,585	1,626	+3%	34,627	36,833	+6%
保険料等収入	14,954	14,071	△6%	9,558	9,919	+4%	--	2,130	--	1,382	1,449	+5%	25,869	27,900	+8%
資産運用収益	5,888	5,459	△7%	1,220	486	△60%	--	1,149	--	99	14	△85%	7,120	7,100	△0%
経常費用	20,327	19,209	△6%	10,737	10,082	△6%	--	3,282	--	1,489	1,550	+4%	32,284	34,421	+7%
保険金等支払金	12,745	13,631	+7%	2,077	2,960	+43%	--	1,865	--	916	937	+2%	15,689	19,664	+25%
責任準備金等繰入額	3,018	267	△91%	8,097	4,106	△49%	--	929	--	211	168	△21%	11,097	5,571	△50%
資産運用費用	585	1,624	+178%	31	2,446	+7,587%	--	60	--	18	90	+398%	579	3,982	+587%
事業費	2,006	2,015	+0%	476	510	+7%	--	308	--	287	301	+5%	2,812	3,258	+16%
経常利益	2,240	1,840	△18%	41	324	+678%	--	189	--	96	75	△21%	2,343	2,412	+3%
特別利益	4	1	△73%	--	--	--	--	--	--	--	--	--	7	1	△82%
特別損失	120	104	△13%	7	12	+55%	--	--	--	--	0	--	128	116	△9%
純利益 ⁽³⁾	1,167	909	△22%	27	286	+957%	--	126	--	71	56	△22%	1,233	1,351	+10%

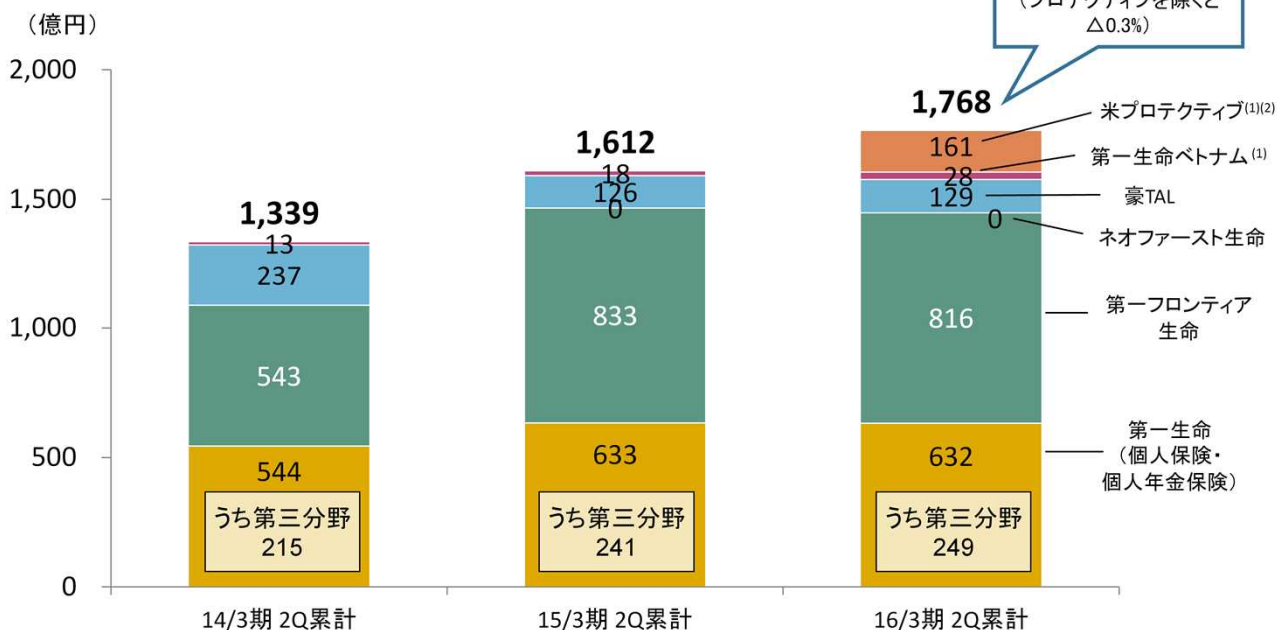
(1) 米プロテクトティブの数値は、2015年2-6月の実績です。

(2) 米プロテクトティブおよび豪TALの数値は、各国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。当第2四半期より、米プロテクトティブの財務諸表の組替えに際し、投資性商品の一部の保険料、保険金等の表示方法の変更を行いました。なお、経常収益、経常費用がそれぞれ同額減少するため、経常利益の額に変動はありません。連結の際には、それぞれ1米ドル=122.45円、1豪ドル=95.19円(15/3期2Q)、84.06円(16/3期2Q)で円換算しています。

(3) 連結純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を記載しています。

- グループ各社の決算についてコメントします。
- 第一生命単体では、一時払終身保険の予定利率を下げた影響で、同商品の販売が減少し、保険料等収入は前年同期比6%減となりました。資産運用収益は同7%減となりましたが、厳しい外部環境にも関わらず利息配当金等収入が増加し、順ぎやが拡大しました。資産運用費用は、特別勘定に関する損益も含め、非常に良好であった前年同期との比較では増加しました。以上のことから、純利益は同22%減となりました。
- 第一フロンティア生命では、高水準の保険販売が続き、保険料等収入は同4%増となりました。保険金等支払金や、資産運用費用が増加しておりますが、これらは責任準備金の戻入を通じて相殺されています。責任準備金等繰入額の減少には、ただいまご説明した要因のほか、外国金利上昇に伴う責任準備金の戻入が含まれており、これを主な要因として純利益は大幅増となりました。
- オーストラリアのTAL社の保険料等収入は、現地通貨建てで同5%増となりました。保険金等の支払請求は落ち着きを見せており、責任準備金の繰入負担が軽減するなど、実質的な収益力は改善しましたが、前年同期における金利低下に伴う会計的要因の剥落などにより、純利益は同22%減となりました。
- 5ページをご覧ください。

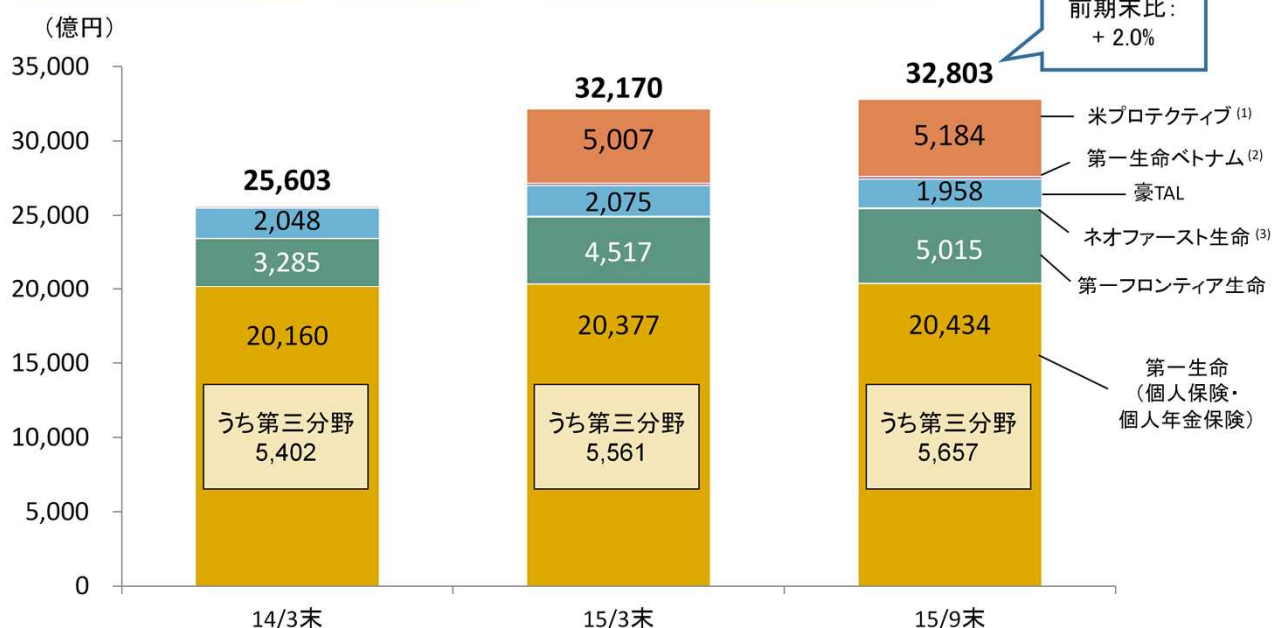
第一生命グループの新契約年換算保険料



(1) 米プロテクティブ、第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。
 (2) 米プロテクティブの実績は、16/3期 2Qのみを記載しています。
 (3) ネオファースト生命の実績は15/3期7-9月、16/3期2Qのみを記載しています。

- 第一生命グループの新契約の動向を、年換算保険料ベースでご説明します。
- 第一生命単体の新契約は、年金商品や第三分野商品の販売が伸展しましたが、一時払商品の販売が減少したため、前年同期比で微減となりました。
- 第一フロンティア生命の新契約は、販売好調を背景に高水準を維持しましたが、保険期間の長い終身商品のウェイトが高まったため、年換算すると同2.1%減となりました。
- TALの新契約は現地通貨建てで同15.8%増、円建てで同2.3%増となりました。
- 第一生命ベトナムの新契約は現地通貨建てで同34.2%増、円建てで同56.6%増となりました。
- 以上から、グループ全体の新契約は、プロテクティブ社による増加要因を除いたベースで、同0.3%減となりました。
- なお、プロテクティブ社を含めると、グループ全体の新契約は同9.7%の増加となりました。
- 6ページをご覧ください。

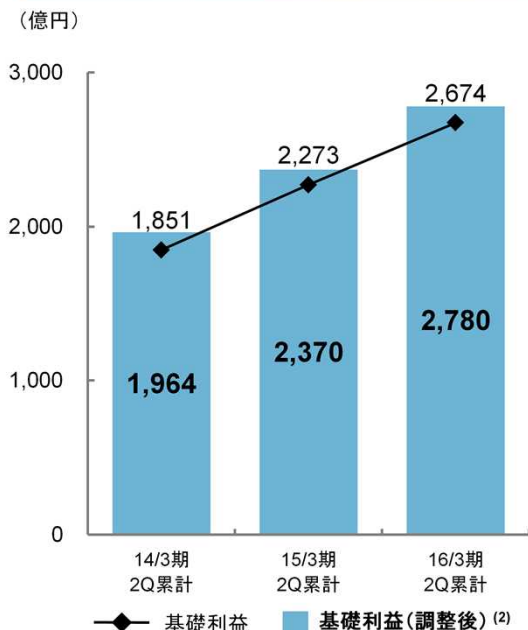
第一生命グループの保有契約年換算保険料



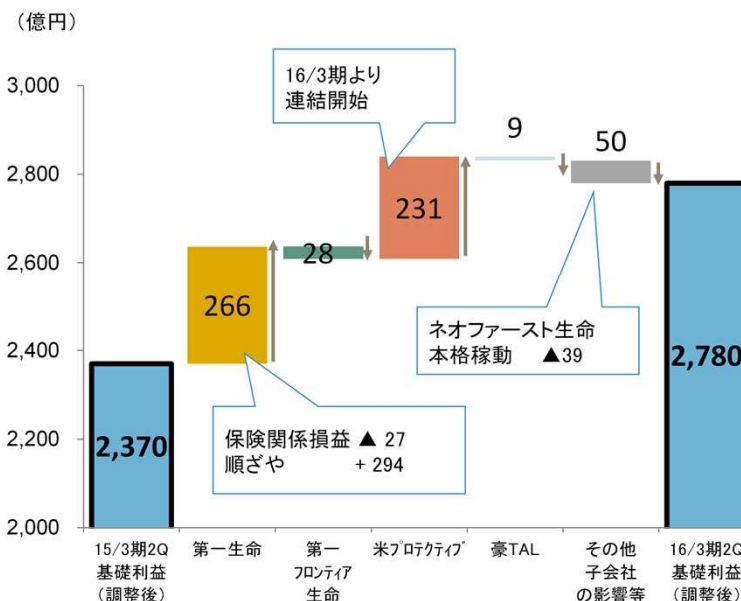
(1) 米プロテクトティブの決算日は12月31日です。15/3末の実績は完全子会社化(2015年2月1日)時点の数値を記載しています。
 (2) 第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。14/3末、15/3末、15/9末の実績はそれぞれ 108億円、155億円、174億円です。
 (3) ネオファースト生命については、完全子会社化以降の実績を記載しています。15/3末、15/9末の実績はそれぞれ 37億円、36億円です。

- 保有契約の動向についてご説明します。こちらでも年換算保険料ベースで説明しています。
- 第一生命単体の保有契約は前期末比微増となりました。うち、第三分野の保有契約は同1.7%の増加となりました。第一フロンティア生命は同11.0%増、TALは現地通貨建てで同3.3%増加したものの、円建てでは同5.7%減となりました。第一生命ベトナムも保有契約を積み上げました。プロテクトティブ社の保有契約は、円建てで同3.5%増となりました。
- その結果、グループ全体の保有契約は同2.0%増とプラス成長を維持しました。
- 7ページをご覧ください。

基礎利益 (1)(2)



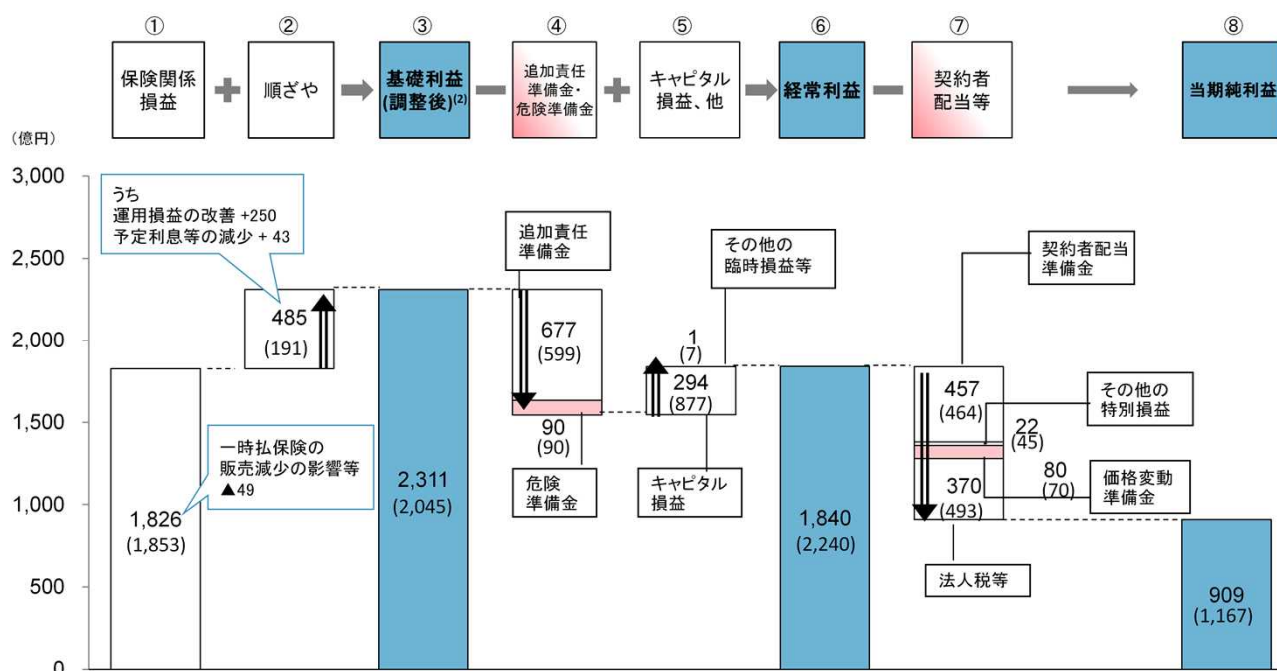
基礎利益(調整後)の変動要因 (1)(2)



(1) 第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命(15/3期7-9月、16/3期2Qのみ)の基礎利益、米プロテktiv(16/3期2Qのみ)の税引前営業利益、TALの修正利益(税引前換算)、第一生命ベトナムの税引前利益を合算し、第一生命グループ内の内部取引の一部を相殺。

(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額 ± 定額保険の市場価格調整に係る責任準備金繰入(戻入)額。ただし、市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、為替差損益勘定で相殺され、経常利益に影響を及ぼさない部分を除く

- 第一生命グループの基礎利益についてご説明します。
- 市場変動による影響を除いた、調整後の基礎利益を棒グラフでお示していますが、前年同期の2,370億円から2,780億円へと、高い伸びを見せました。
- この変動要因について、右のグラフでご説明します。
- 第一生命単体では、保険関係損益が微減となりましたが、順ざやが拡大したことで、調整後の基礎利益は大幅な改善となりました。
- また、プロテktiv社の貢献として、同社の税引前営業利益をグループ基礎利益に加えております。
- 8ページをご覧ください。



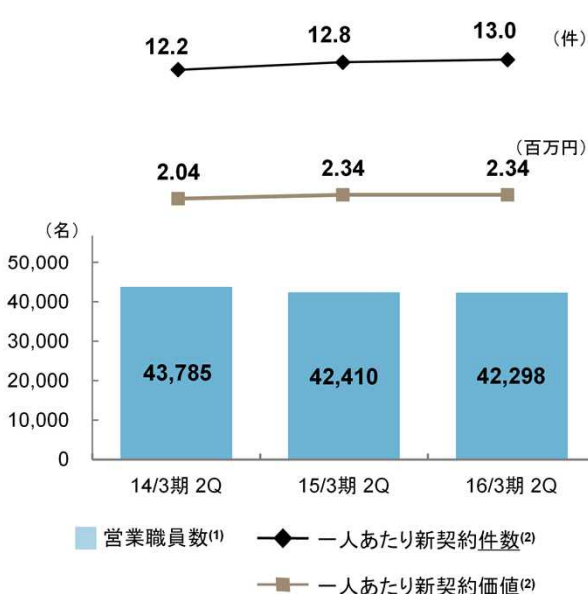
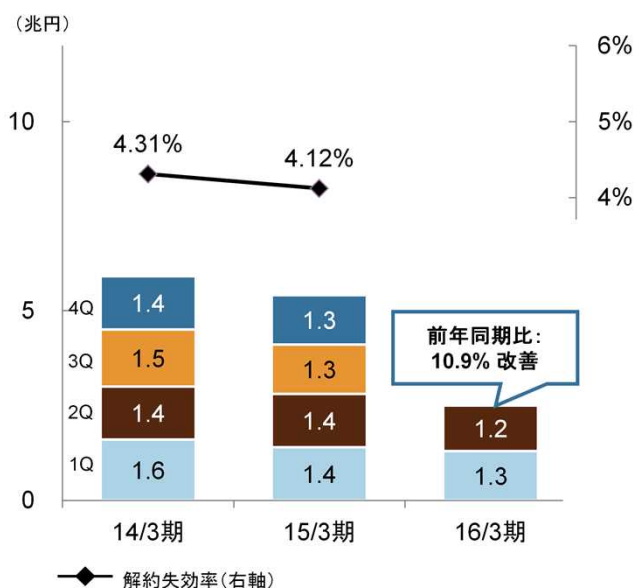
(1) 前年同期の数値を()内に記載しています。

(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額 ± 定額保険の市場価格調整に係る責任準備金繰入(戻入)額

- 第一生命単体の状況についてご説明します。
- 先ほどご説明したとおり、第一生命では一時払商品の販売が減少したため、保険関係損益が微減しましたが、順ざやが大幅に拡大しました。順ざや拡大の要因は主に、利息配当金等収入の増加や、追加責任準備金の繰入による予定利息の減少です。調整後基礎利益は、前年同期比13%増となりました。
- 一方、キャピタル損益は、当第2四半期累計も通期予想に対して良好なペースで進捗しましたが、非常に良好であった前年同期の水準からは減少し、経常利益・純利益は減少しました。
- 9ページをご覧ください。

解約失効高(個人保険・個人年金)

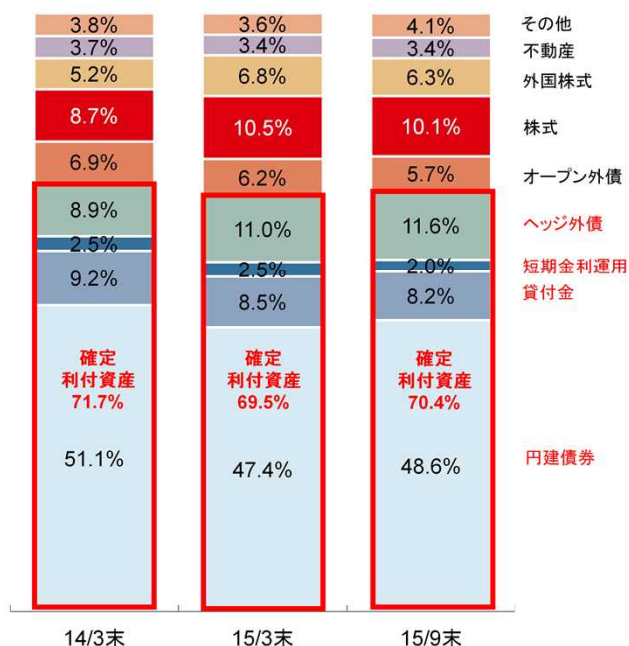
営業職員数および生産性



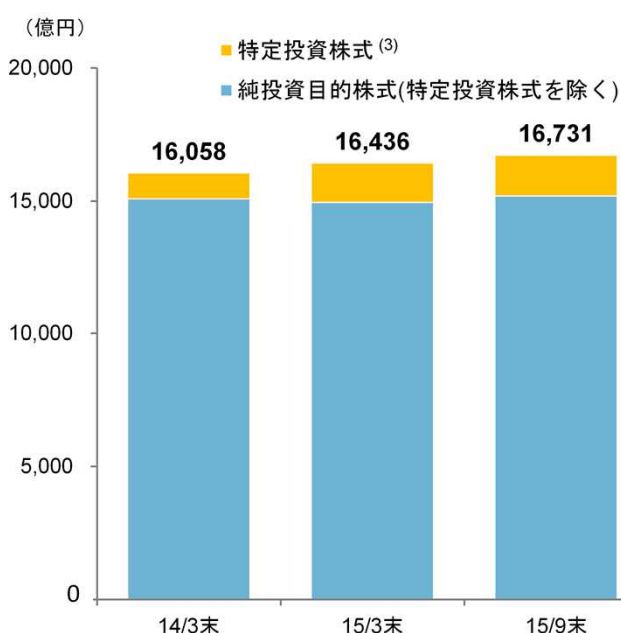
(1) 営業職員については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。
 (2) 各期間における新契約価値及び新契約件数を分子、各期間の営業職員数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値を分母として計算しています。

- 左のグラフは第一生命単体の解約失効高ならびに解約失効率の状況を示しています。継続的な解約失効対策の取組みにより、解約失効高は前年同期比で10.9%の改善となりました。
- 右のグラフは営業職員数とその生産性の推移を示しています。営業職員数は前年同期末との比較では減少したものの、前年度末との比較では増加しました。また、1人あたり新契約件数は改善、1人あたり新契約価値は横ばいとなりました。
- 10ページをご覧ください。

資産の構成(一般勘定) (1)



国内株式の簿価 (2)

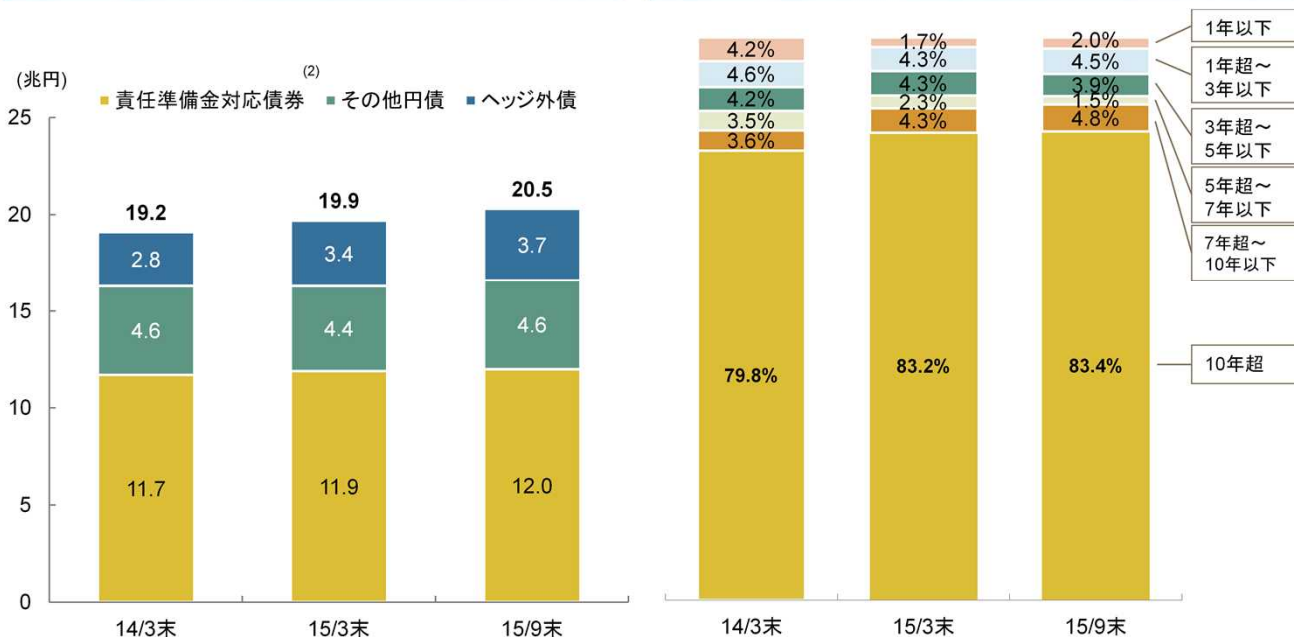


(1) 貸借対照表価額ベース
 (2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)。
 (3) 純投資目的以外の目的で保有する株式(非上場国内株式、みなし保有株式は除く)。

- 資産運用の状況についてご説明します。
- 左のグラフは第一生命の一般勘定資産の構成比を示しています。引き続き、ALMと厳格なリスク管理の考え方に基づいて、円建債券など円ベースの確定利付資産中心の運用を行っています。当第2四半期累計では、国内で低金利が継続したことを踏まえ、ヘッジ外債への配分を増やしました。
- 国内株式の構成比は、時価の変動を主な要因として減少しました。右のグラフでは、国内株式の簿価残高を、特定投資株式とそれ以外に分けてお示ししています。当四半期末の残高は、成長銘柄への投資を実行したため、前期末比で純投資目的の株式が増加しました。
- 11ページをご覧ください。

債券の積み増し状況 (1)

国内債券の残存期間 (3)



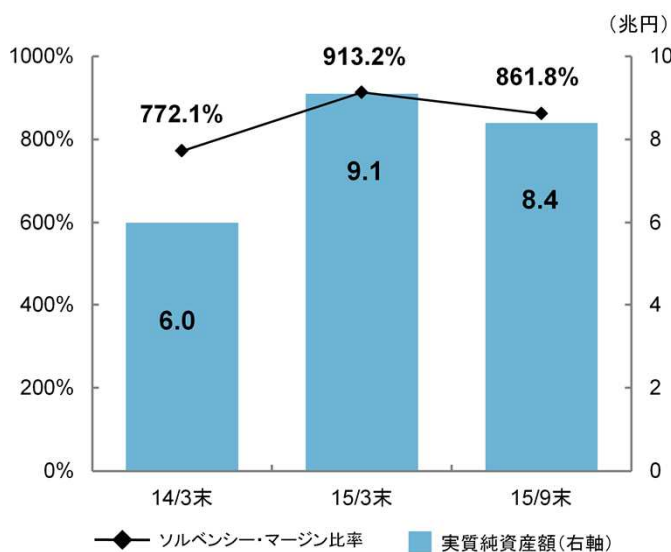
(1) 一般勘定資産のうち円建債券とヘッジ外債を対象とする。簿価ベース
 (2) 責任準備金対応債券とは、保険会社だけに認められた区分で、一定の要件を満たせば償却原価法による評価が認められている。
 (3) 一般勘定資産のうち国内債券を対象とする。貸借対照表価額ベース

- 円建債券等の保有状況についてご説明します。
- 左のグラフは円建の確定利付資産のうち、円建債券とヘッジ外債の簿価残高を示しています。円建債券については、低金利環境を踏まえて買入れの抑制を継続した一方、ヘッジ外債の残高を積み増しました。
- 12ページをご覧ください。

含み損益(一般勘定)

(億円)			
	15/3末	15/9末	増減
有価証券	54,917	47,216	△7,700
国内債券	22,368	22,168	△200
国内株式	17,856	15,148	△2,708
外国債券	10,116	7,254	△2,861
外国株式	3,892	2,329	△1,562
不動産	755	847	+91
その他共計	55,507	47,914	△7,592

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額



<参考> 連結ソルベンシー・マージン比率:
2015年9月末 740.1%

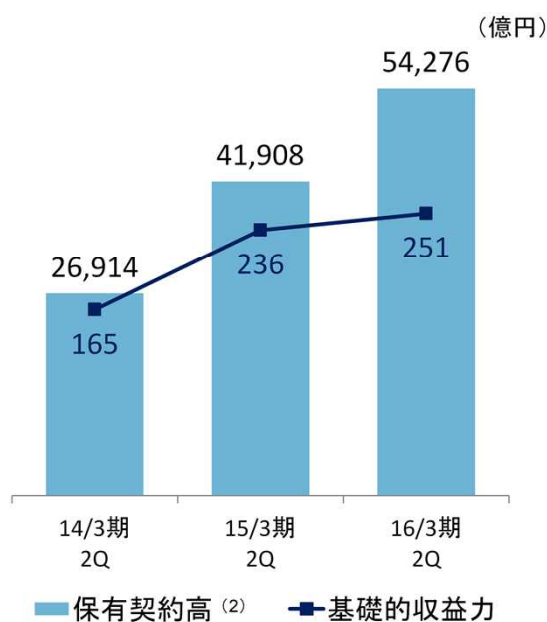
- 第一生命単体の健全性についてご説明します。
- 左の表では一般勘定各資産の含み益の変化を示しています。前期末と比較しますと、中国経済の減速懸念等を背景とした世界的な株安の進行を受け、国内外の株式の含み益が減少したほか、主に海外における金利の上昇により、外国債券の含み益が減少し、一般勘定資産全体で含み益は約7,600億円減少しました。
- 右の折れ線グラフで示したソルベンシー・マージン比率は、利益の積み上がりなどで中核的支払余力が充実した一方、有価証券含み益の減少がこれを上回ったため、前期末に比べ51.4ポイント低下し、861.8%となりました。
- 13ページをご覧ください。

収支の状況

	(億円)	
	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計
経常収益	10,779	10,406
うち保険料等収入	9,558	9,919
うち変額商品	967	940
うち円建定額商品	1,487	1,604
うち外貨建定額商品	6,226	6,323
うち資産運用収益	1,220	486
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	-	68
経常費用	10,737	10,082
うち責任準備金等繰入額(△は戻入)	8,097	4,106
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(B)	7	281
うち市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入額(C) (1)	95	△ 173
うち危険準備金繰入額(D)	86	△ 74
うち資産運用費用	31	2,446
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(E)	18	-
経常利益(△は損失)	41	324
純利益(△は損失)	27	286
純利益 - (A) + (B) + (C) + (D) + (E)	236	251

(1) 市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、為替差損益勘定で相殺されて、経常利益に影響を及ぼさない部分を除く

保有契約高と基礎的収益力



(2) 保有契約高は各期間の末日時点

- 第一フロンティア生命の状況についてご説明します。
- 当第2四半期累計は、外貨建商品を中心に保険販売の好調が続き、保険料等収入は前年同期比3.8%増の約9,900億円となりました。保有契約高は約5.4兆円に達しています。
- 経常費用項目のうち、最低保証リスクに係る責任準備金の繰入額は、国内外の株式市場の調整により前年同期で増加しました。ただし、この一部は、ヘッジ利益で相殺しております。また、市場価格調整に係る責任準備金については、外国金利の上昇に伴い、前年同期の繰入れから戻入れに転じました。このようなことから、経常利益・純利益は、前年同期比で大幅に増加しました。
- 右のグラフでは、保有契約高と基礎的収益力の推移をお示ししています。基礎的収益力とは、会計利益に市場変動要因を調整した収益指標です。いずれも好調な保険販売を背景に増加しました。
- 14ページをご覧ください。

- 危険差益が想定を下回ったが、運用収益が良好に推移し、税引前営業利益は約188百万ドル、純利益は約126百万ドルと、予算超過ペース。

主要業績

(百万米ドル)

	16/3期 2Q累計
生保事業	10.0
買収事業	73.9
年金事業	87.3
ステープルバリュー事業	15.4
アセットプロテクション事業	9.9
ユーホレート	△ 7.9
税引前営業利益 Pre-tax Operating Earnings	188.8
法人税等	△ 63.0
キャピタル損益(運用収支)	△ 158.6
キャピタル損益(金融派生商品損益)	159.5
当期利益	126.7

<参考>

	15/6末
為替レート(米ドル)	122.45

セグメント業績動向

【生保事業】 一時的な支出の増加、想定以下の危険差益と想定以上の解約により、営業利益は予算未達ペース。
【買収事業】 過去に買収した既契約ブロックの一部において、第1四半期に良好だった危険差益の反動が第2四半期にあり、営業利益はわずかに予算未達ペース。
【年金事業】 想定以上の運用収益の計上に加え、定額年金における良好な危険差益により、営業利益は予算超過ペース。
【ステープルバリュー事業】 資産残高は減少したが、営業利益は予算なみの進捗。
【アセットプロテクション事業】 主力損保商品(主に車両保険)の好調な販売により、営業利益は予算超過ペース。

(1) 米プロテクティブ社の決算日は12月31日です。16/3期2Qの実績は、子会社化(2015年2月1日)以降、同年6月までの5ヶ月間の実績です。

(2) 税引前営業利益(Pre-tax Operating Earnings)とは、当期利益から資産運用やデリバティブにおけるキャピタル損益を控除した利益指標です。

- プロテクティブ社の状況についてご説明します。
- 同社においては、当社による買収完了日である今年2月1日時点で、資産・負債の洗い替えを実施したため、前年同期の数値はございません。また、同社の会計年度は12月末ですので、連結にあたっては3ヶ月の期ズレが存在します。したがって、当第2四半期累計の業績は、当社による買収日以降の5ヶ月分、すなわち2月から6月までの業績となります。
- 当第2四半期累計の業績は、主に、危険差益が想定を下回りましたが、運用収益が想定を上回ったため、税引前営業利益は約188百万ドル、また、純利益は約126百万ドルとなりました。純利益に関する通期の業績予想は230百万ドルですから、5ヶ月間の業績は良好に推移しております。
- なお、9月30日にリリースしたとおり、プロテクティブ社はジェンワース・フィナンシャル社の傘下の保険会社が保有する定期保険ブロックを再保険形式で買収することで、同社と合意しました。総投資金額は約661百万ドルと、プロテクティブ社にとって過去2番目に大きな買収案件となります。この買収案件により、同社の利益基盤は一層強固なものとなり、また、この投資に充当する資本の大部分は数年内に回収できる見込みとなっております。
- 15ページをご覧ください。

主要業績

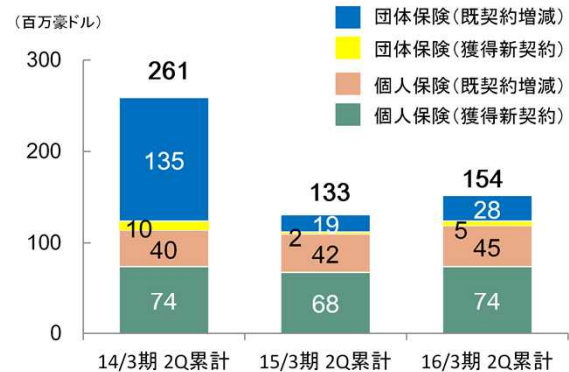
(百万豪ドル)			
	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	前年 同期比
経常収益 (2)	1,585	1,626	+3%
うち保険料等収入 (2)	1,382	1,449	+5%
経常利益 (2)	96	75	△21%
純利益(A) (2)	71	56	△22%
修正額(B)	7	25	
うち負債割引率の変化	△ 9	0	
うち償却負担	10	10	
その他	5	15	
修正利益=(A)+(B) (Underlying profit)	78	81	+3%

<参考>

	14/9末	15/9末
為替レート(豪ドル)	95.19円	84.06円

(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値
 (2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正額及び修正利益を除く)

新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



- TALの状況についてご説明します。
- 右上の、豪ドル建ての新契約年換算保険料は、堅調な進展を見せ、前年同期比16%増となりました。これを受け、保有契約年換算保険料も増加しております。
- 保険料等収入は同5%増となりました。また、保険金等の支払いや、支払請求に応じた備金の繰入れの状況は総じて良好でした。こうしたことから、修正利益は、同3%増となりました。
- しかし、会計上の利益は、金利変動を背景とする会計的影響を主因として、同22%減少しました。
- 金利の上昇は国際会計基準を採用するTALのバランスシート構造上、利益を押し下げる要因になります。前年同期は金利が低下したため、純利益を約9百万豪ドル押し上げていましたが、当第2四半期累計では、このような影響は限定的でした。
- なお、TALは大規模団体から保険契約を獲得し、11月より引受を開始しております。今後も成長が見込まれるオーストラリアの保障性市場において、個人保険・団体保険のバランスのとれた成長戦略を実行してまいります。
- 16ページをご覧ください。

- 販売好調な第一フロンティアの保険料等収入の増加に伴い、通期の業績予想を上方修正。また、第一生命単体における順ぎやの拡大を踏まえ、基礎利益の通期予想を上方修正。
- 連結当期純利益も通期の業績予想に対して高い進捗となったが、今後の金融・経済情勢の動向によって業績が変動する可能性があるため、現時点では業績予想を据え置き。

	(億円)			(参考)
	15/3期	16/3期(予) ※2015/11/13 発表予想	増減	16/3期(予) ※2015/5/15 発表予想
連結経常収益	72,522	70,960	△ 1,562	67,730
第一生命単体	47,984	42,010	△ 5,974	41,240
第一フロンティア	21,575	16,770	△ 4,805	12,460
プロテクティブ(百万米ドル)	-	7,630	+ 7,630	8,890
TAL(百万豪ドル)	3,166	3,390	+ 223	3,440
連結経常利益	4,068	3,690	△ 378	3,690
第一生命単体	4,087	3,010	△ 1,077	3,010
第一フロンティア	△ 197	140	+ 337	140
プロテクティブ(百万米ドル)	-	340	+ 340	340
TAL(百万豪ドル)	184	150	△ 34	150
連結純利益⁽¹⁾	1,424	1,610	+ 185	1,610
第一生命単体	1,521	1,190	△ 331	1,190
第一フロンティア	△ 219	110	+ 329	110
プロテクティブ(百万米ドル)	-	230	+ 230	230
TAL(百万豪ドル)	131	100	△ 31	100
1株当たり配当金	28円	35円	+7円	35円

(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

(参考:基礎利益)

第一生命グループ	4,720	5,100程度	+379	5,100程度
第一生命単体	4,582	4,400程度	△ 182	4,200程度

- 続いて第一生命グループの2016年3月期連結業績予想についてご説明します。
- 連結経常収益は、第一フロンティア生命における好調な保険販売により保険料等収入の増加を見込むことから、また、第一生命単体の基礎利益は、想定以上の順ぎや拡大が見られたことから、通期の予想を上方修正しました。
- なお、経常利益、当期純利益ならびにグループ基礎利益については、業績予想を据え置きとしています。これは、第一生命単体におけるキャピタル損益やグループ各社の利益について、今後の国内外の金融環境の推移を見守る必要があるためです。1株当たりの配当予想も35円を据え置いています。
- 17ページをご覧ください。

- 各社において新契約価値を積上げるも、金融環境の悪化を背景に、グループEEVは減少
- 第一フロンティア、TAL、プロテクトティブ社のEVは増加(現地通貨ベース)

第一生命グループのEEV

(億円)

	15/3末	15/9末	増減
EEV	57,796	56,265	△1,531
修正純資産	55,408	50,151	△5,256
保有契約価値	2,388	6,113	+3,725

	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	増減	15/3期
新契約価値	1,371	1,405	+34	2,740

第一生命(単体)

(億円)

	15/3末	15/9末	増減
EEV	57,008	54,898	△2,109
修正純資産	57,918	52,830	△5,088
保有契約価値	△ 910	2,067	+2,978

	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	増減	15/3期
新契約価値	1,000	983	△17	1,981

第一フロンティア生命

(億円)

	15/3末	15/9末	増減
EEV	2,527	2,661	+133
修正純資産	1,882	1,491	△390
保有契約価値	645	1,169	+524

	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	増減	15/3期
新契約価値	295	327	+31	586

17

- 2015年9月末のグループ・エンベディッド・バリューについてご説明します。本日時点では、まだ第三者意見を得ていないため、要約での開示となります。
- 2015年9月末のEVは修正純資産が約5兆100億円、保有契約価値が約6,100億円で、合計約5兆6,200億円となりました。3月末に比べ約1,500億円の減少となります。
- 修正純資産は、世界的な株価の調整や金利の上昇により、有価証券の含み損益が減少し、全体で約5,200億円の減少となりました。
- 一方で、国内の金利上昇は保有契約価値を増加させます。保有契約価値は、日本国債の超長期ゾーンの金利上昇の影響と、新契約の獲得により、約3,700億円増加しました。
- グループ各社のEVを、本ページの下段と、次の18ページにお示しています。第一生命単体のEVは、グループEVと同様の影響を受けましたが、国内外の子会社においては、各社とも、現地通貨建てでEVが増加しました。
- 本日は第2四半期決算についてご説明しましたが、11月19日には社長の渡邊に加え、各事業を担う役員が事業戦略についてアップデートさせて頂く予定ですので、是非ご参加下さい。
- 以上で、私からの説明を終了させていただきます。

プロテクティブ

(億円)

	15/2/1	15/6末	増減
EEV	5,029	5,598	+569
修正純資産	3,517	3,794	+276
保有契約価値	1,512	1,804	+292

	14/1-6月 累計	15/2-6月 累計	増減	15/3期
新契約価値	-	22	-	-

15/2/1 EEV: 15/1末の為替レート(1米ドル=118.25円)を使用
 15/6末EEV・15/2-6月累計の新契約価値: 15/6末の為替レート(1米ドル=122.45円)を使用

プロテクティブ(米ドルベース)

(百万米ドル)

	15/2/1	15/6末	増減
EEV	4,253	4,572	+319
修正純資産	2,974	3,098	+124
保有契約価値	1,278	1,473	+195

	14/1-6月 累計	15/2-6月 累計	増減	15/3期
新契約価値	-	18	-	-

TAL

(億円)

	15/3末	15/9末	増減
EEV	2,378	2,281	△97
修正純資産	1,237	1,210	△26
保有契約価値	1,141	1,070	△70

	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	増減	15/3期
新契約価値	75	73	△2	173

15/3期2Q累計の新契約価値: 14/9末の為替レート(1豪ドル=95.19円)を使用
 15/3末EEV・15/3期の新契約価値: 15/3末の為替レート(1豪ドル=92.06円)を使用
 15/9末EEV・16/3期2Q累計の新契約価値: 15/9末の為替レート(1豪ドル=84.06円)を使用

TAL(豪ドルベース)

(百万豪ドル)

	15/3末	15/9末	増減
EEV	2,583	2,713	+129
修正純資産	1,344	1,439	+95
保有契約価値	1,239	1,273	+34

	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	増減	15/3期
新契約価値	79	86	+7	188

参考データ

第一生命グループ業績 - グループ各社の貸借対照表

一生涯のパートナー

第一生命

	【第一生命】 (億円)	【第一フロンティア生命】 (億円)	【米プロテクトティブ】 ⁽¹⁾ (百万米ドル)	【豪TAL】 ⁽¹⁾ (百万豪ドル)	【その他】 ⁽²⁾ (連結調整仕訳含む) (億円)	【連結】 ⁽²⁾ (億円)
	15年9月末	15年9月末	15年6月末	15年9月末		15年9月末
資産の部合計	363,701	54,207	69,292	6,752	△9,546	498,888
うち現預金・コール	8,046	1,385	577	1,154	411	11,521
うち有価証券	304,334	51,325	51,463	2,894	△8,977	412,131
うち貸付金	28,943	-	7,399	3	14	38,021
うち有形固定資産	11,987	3	110	0	5	12,131
うち無形固定資産	827	15	2,684	1,221	△1,014	4,142
うちのれん	-	-	735	786	△1,004	557
うちその他の無形固定資産	220	0	1,933	433	0	2,952
うち再保険貸	55	737	176	83	△52	1,027
負債の部合計	332,909	53,453	64,509	4,663	△602	468,673
うち保険契約準備金	304,495	52,223	58,286	3,364	233	431,153
うち再保険借	4	38	256	330	△51	583
うち社債	2,157	-	2,226	-	-	4,883
うちその他負債	17,230	1,023	2,542	876	△305	21,799
純資産の部合計	30,791	754	4,782	2,089	△8,943	30,214
うち株主資本合計	11,519	471	5,680	2,089	△9,690	11,012
うち資本金	3,431	1,175	0	1,630	△2,545	3,431
うち資本剰余金	3,436	675	5,554	-	△7,612	3,299

(1) 米プロテクトティブ、豪TALの数値は、それぞれ米国、オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。連結の際には、1米ドル=122.45円、1豪ドル=84.06円で、それぞれ円換算されております。

(2) その他および連結の数値には、本表に記載以外の連結各社に関する数値等が含まれております。

損益計算書(1)

(億円)

	15/3期 2Q	16/3期 2Q	増減
経常収益	22,568	21,049	△1,518
保険料等収入	14,954	14,071	△882
資産運用収益	5,888	5,459	△428
うち利息・配当金等収入	3,885	4,046	+161
うち有価証券売却益	1,095	1,217	+121
うち特別勘定資産運用益	779	-	△779
その他経常収益	1,726	1,518	△207
経常費用	20,327	19,209	△1,118
うち保険金等支払金	12,745	13,631	+886
うち責任準備金等繰入額	3,018	267	△2,750
うち資産運用費用	585	1,624	+1,039
うち有価証券売却損	54	327	+273
うち有価証券評価損	5	50	+44
うち金融派生商品費用	29	246	+217
うち特別勘定資産運用損	-	355	+355
うち事業費	2,006	2,015	+8
経常利益	2,240	1,840	△399
特別利益	4	1	△3
特別損失	120	104	△16
契約者配当準備金繰入額	464	457	△6
税引前純利益	1,660	1,280	△380
法人税等合計	493	370	△122
純利益	1,167	909	△257

貸借対照表

(億円)

	15/3末	15/9末	増減
資産の部合計	368,287	363,701	△4,586
うち現預金・コール	10,187	8,046	△2,140
うち買入金銭債権	2,597	2,449	△147
うち有価証券	306,733	304,334	△2,398
うち貸付金	30,292	28,943	△1,349
うち有形固定資産	12,032	11,987	△45
負債の部合計	332,774	332,909	+135
うち保険契約準備金	304,496	304,495	△0
うち責任準備金	298,409	298,567	+157
うち危険準備金	5,580	5,670	+90
うち退職給付引当金	3,894	3,872	△21
うち価格変動準備金	1,324	1,404	+80
うち繰延税金負債	4,138	1,900	△2,237
純資産の部合計	35,513	30,791	△4,721
うち株主資本合計	11,073	11,519	+445
うち評価・換算差額等合計	24,432	19,263	△5,168
うちその他有価証券評価差額金	24,886	19,715	△5,171
うち土地再評価差額金	△334	△342	△8

(1) 特別勘定資産運用損益は、責任準備金の戻入れ/繰入れで相殺されるため、経常利益に影響するものではありません

損益計算書

(億円)

	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	増減
経常収益	10,779	10,406	△372
うち保険料等収入	9,558	9,919	+360
うち資産運用収益	1,220	486	△733
経常費用	10,737	10,082	△655
うち保険金等支払金	2,077	2,960	+883
うち責任準備金等繰入額	8,097	4,106	△3,990
うち資産運用費用	31	2,446	+2,414
うち事業費	476	510	+33
経常利益	41	324	+282
特別損益	△7	△12	△4
税引前純利益	33	311	+278
法人税等合計	6	24	+18
純利益	27	286	+259

貸借対照表

(億円)

	15/3末	15/9末	増減
資産の部合計	49,372	54,207	+4,835
うち現預金・コール	813	1,385	+572
うち有価証券	47,154	51,325	+4,171
負債の部合計	48,798	53,453	+4,655
うち保険契約準備金	48,116	52,223	+4,106
うち責任準備金	48,070	52,166	+4,095
うち危険準備金	1,203	1,128	△74
純資産の部合計	574	754	+179
うち株主資本合計	184	471	+286
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△1,665	△1,378	+286

損益計算書⁽¹⁾⁽²⁾

貸借対照表⁽¹⁾⁽²⁾

(百万米ドル)

(百万米ドル)

	16/3期 2Q累計
経常収益	3,472
保険料等収入	2,130
資産運用収益	1,149
その他経常収益	193
経常費用	3,282
保険金等支払金	1,865
責任準備金等繰入額	929
資産運用費用	60
事業費	308
その他経常費用	118
経常利益	189
法人税等合計	63
純利益	126

	15/2/1	15/6末	増減
資産の部合計	70,966	69,292	△1,674
うち現預金	463	577	+114
うち有価証券	53,287	51,463	△1,824
うち貸付金	7,333	7,399	+66
うち有形固定資産	111	110	△1
うち無形固定資産	2,712	2,684	△28
うち のれん	735	735	-
うち その他の無形固定資産	1,959	1,933	△26
うち再保険貸	202	176	△25
負債の部合計	65,412	64,509	△902
うち保険契約準備金	58,844	58,286	△557
うち再保険借	252	256	+3
うち社債	2,311	2,226	△84
うちその他負債	2,338	2,542	+203
純資産の部合計	5,554	4,782	△771
うち株主資本合計	5,554	5,680	+126
うちその他の包括利益累計額合計	-	△897	△897

(1) 米国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。当第2四半期より、米プロテクトティブの財務諸表の組替えに際し、投資性商品の一部の保険料、保険金等の表示方法の変更を行いました。なお、経常収益、経常費用がそれぞれ同額減少するため、経常利益の額に変動はありません。

(2) 米プロテクトティブの決算日は12月31日です。16/3期2Qの実績は、子会社化(2015年2月1日)以降、同年6月までの5ヶ月間の実績です。

損益計算書⁽¹⁾⁽²⁾

(百万豪ドル)

	15/3期 2Q累計	16/3期 2Q累計	増減
経常収益	1,585	1,626	+40
保険料等収入	1,382	1,449	+67
資産運用収益	99	14	△84
その他経常収益	104	162	+58
経常費用	1,489	1,550	+61
保険金等支払金	916	937	+20
責任準備金等繰入額	211	168	△43
資産運用費用	18	90	+72
事業費	287	301	+14
その他経常費用	55	53	△2
経常利益	96	75	△20
法人税等	24	19	△4
純利益	71	56	△15
修正利益 (Underlying profit)	78	81	+2

貸借対照表⁽¹⁾⁽²⁾

(百万豪ドル)

	15/3末	15/9末	増減
資産の部合計	6,674	6,752	+78
現預金	924	1,154	+229
有価証券	3,070	2,894	△176
有形固定資産	1	0	△0
無形固定資産	1,235	1,221	△14
のれん	786	786	-
その他無形固定資産	449	435	△14
再保険貸	116	83	△33
その他資産	1,326	1,399	+72
負債の部合計	4,641	4,663	+21
保険契約準備金	3,340	3,364	+24
再保険借	335	330	△4
その他負債	859	876	+16
繰延税金負債	106	91	△14
純資産の部合計	2,033	2,089	+56
株主資本合計	2,033	2,089	+56
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	402	458	+56

(1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正利益を除く)

	感応度 ⁽¹⁾	含み損益ゼロ水準 ⁽²⁾
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2015年3月末: 1,700億円)	日経平均株価 ¥9,400 (2015年3月末: ¥8,900)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 2,600億円の増減※ (2015年3月末: 2,600億円) ※その他有価証券区分: 300億円の増減 (2015年3月末: 300億円)	10年国債利回り 1.2%※ (2015年3月末: 1.2%) ※その他有価証券区分: 1.4% (2015年3月末: 1.4%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 290億円の増減 (2015年3月末: 310億円)	ドル/円 \$1 = ¥103 (2015年3月末: ¥100)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度

(2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準

本資料の問い合わせ先
第一生命保険株式会社
経営企画部 IR室
電話：050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。